

「紙無ケレバ、土ニ書カン。 空ニモ書カン。」

コメント

戦中の一連の批評活動によってしばらく沈黙を強いられていた保田與重郎が、執筆を再開して刊行した『日本に祈る』の序文に見られるフレーズです。ものを書くことを生業とする批評家の生き方を見事に表す言葉だと思います。

ちなみに吉見良三は、この「空ニモ書カン」をタイトルとした保田の評伝を書いています。

学校名：大分県立芸術文化短期大学

氏名：野坂昭雄（国際総合学科 教員）

タイトル：『日本に祈る』

著者名：保田與重郎

ページ数：

引用元